

◆技術改良試験(重点普及課題)

オキナワモズク人工苗床実証試験 (本部地区)

水産業改良普及センター本部駐在 平安名 盛 正

1. 目的

モズク養殖の苗床としてアマモ場やサンゴレキ等の底質漁場が利用されている。芽出し時期は、網を揺らすと生長がよいといわれているが、漁場によっては網を緩く張ると擦れるところもあり、網を十分に揺らすことができない。久米島においては育苗時に種付け網の下に敷き網を使用することにより、スレを減らし芽出しをよくすることができるかとされており、その実証試験を本部町地先において実施した。

2. 材料及び方法

試験は、本部漁協モズク生産部会の我部氏(健堅地区)と喜屋武氏(備瀬地区)合同で実施した。網は昨年試験に用いた網を使用(1.5m×20m)各人20枚(計40枚)を使用した。我部氏は、平成21年1月7日種付け開始(4t水槽タンクに40ℓの培養種)。平成21年1月24日塩川へ育苗のため沖出し。敷き網あり5枚1組2セットと、なし5枚1組2セットを設置、20枚共にピン張りとし、底質はサンゴレキと砂。昨年と違う点は、16日間の種付け期間中、10日間は水槽内で培養種と培養液を混入しエアレーション。その後6日間は、水槽内の海水を1日越しで入れ替える。(培養液は入れずに生海水のみでエアレーション)

喜屋武氏は、平成20年12月22日に種付け開始。平成21年1月22日備瀬海域に5枚1組を設置、ピン張りし底質アマモ場。各海域での育苗、本張りでの生育状況を潜水調査で観察し、収穫して収穫量を比較した。

3. 経過及び結果

平成21年1月15日本部町塩川地先において育苗状況を潜水観察。水深3mにおいて、敷き網の有無に関係なく、網全体が茶色く色づき

始めている。各5枚1組を1列にしてピン張り、海面からも確認できる。(写真1)4月1日我部氏の瀬底南側の各5枚を潜水調査。大差なく順調に生育中。5月7日水納島、瀬底島南側の試験区のモズクを収穫。敷き網の有無にかかわらず、どちらも遜色なく順調に生育している。生産量の結果については別紙のとおりである。水納島は、収穫直前の季節風でかなり藻体が切れており、生産量に関して比較することは難しいと思われる。

喜屋武氏については、網全体の芽出しがあまり見られず。(写真2)備瀬1回目の沖出し失敗の連絡あり。沖出しから10日後に確認するが、芽出しがなく網を回収したとのこと。すぐに2回目の種付けを開始。その後、沖出しを3回実施するがいずれも失敗し、今回の試験自体を断念した。

4. 所見

本部町においては、芽出しの状況が全体として不調で、順調に収穫まで出来た生産者が少ない。その中でも我部氏は、昨年度と同様の収穫実績を達成した。モズク育苗における敷き網については本部では、本張り場に移設する場合において、サンゴの引っ掛かりが少なくなり、引き揚げる際の労力軽減においては効果があるということは何の漁業者も評価している。今後は、北風の強い水納島の本張り場で、育苗から実施し、スレ防止を目的として用いれば、塩川での育苗が必要なく、時間と労力の軽減ができる。そもそも、敷き網試験の目的は、敷き網の有無による生産量の比較だけでなく、本部のような養殖海域の少ない地域において漁場の効率的な活用と労力軽減を今後は試験調査する必要があると思われる。



塩川での育苗（敷き網あり）写真1



塩川での育苗（敷き網なし）写真1



本張り試験（敷き網あり）瀬底南



本張り試験（敷き網なし）瀬底南



収穫直前（敷き網あり）水納島



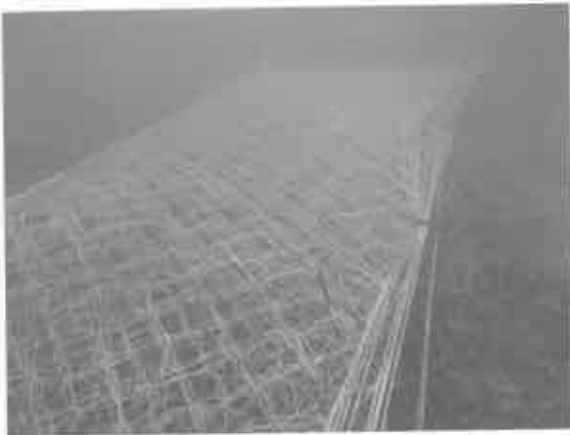
収穫直前（敷き網なし）水納島



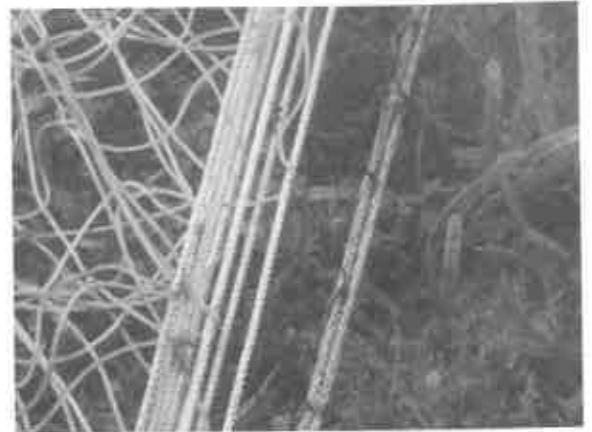
収穫直前（敷き網あり）瀬底南



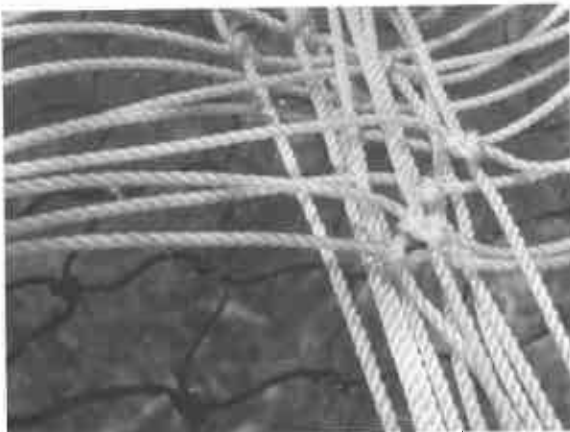
収穫直前（敷き網なし）瀬底南



備瀬 敷き網試験開始 写真2



備瀬 敷き網試験開始 写真2



備瀬 種付けした網（拡大）写真2

本部漁協 我部氏の敷き網試験生産量 結果

場 所	収穫量	かご重量	純生産量	1枚あたりの収穫量
水納島 敷き網あり	網7枚 691kg	- 55kg	636kg	91kg
敷き網なし	網7枚 864kg	- 70kg	794kg	113kg
瀬底南 敷き網あり	網2枚 562kg	- 45kg	517kg	259kg
敷き網なし	網5枚 993kg	- 80kg	913kg	183kg